【高松市】学校給食における食物アレルギー対応の現状

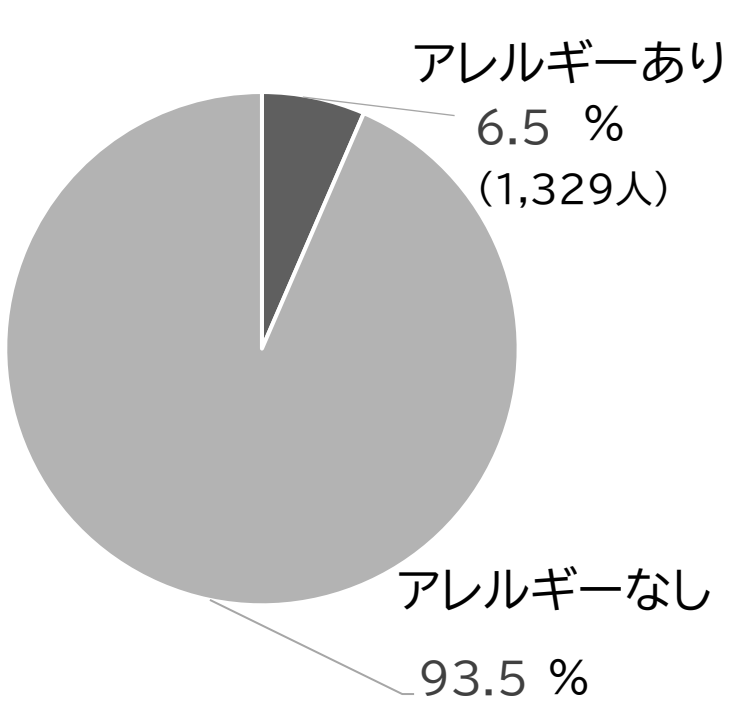
食育実態調査：調査票C
（令和７年５月１日現在）より

高松市教育委員会保健体育課

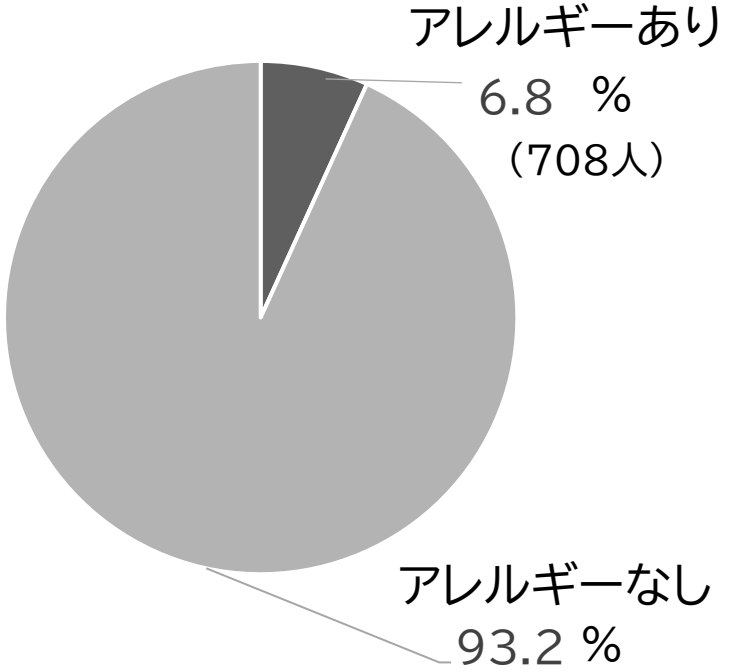
資料１

①　食物アレルギーがある児童生徒数（在籍者に対する割合）

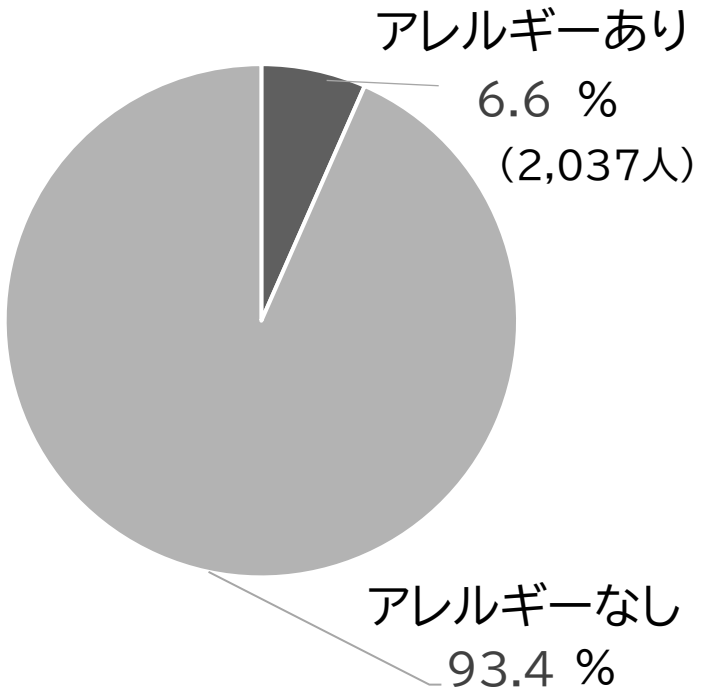
小学校
（全47校:20,598人）



中学校
（全22校:10,436人）



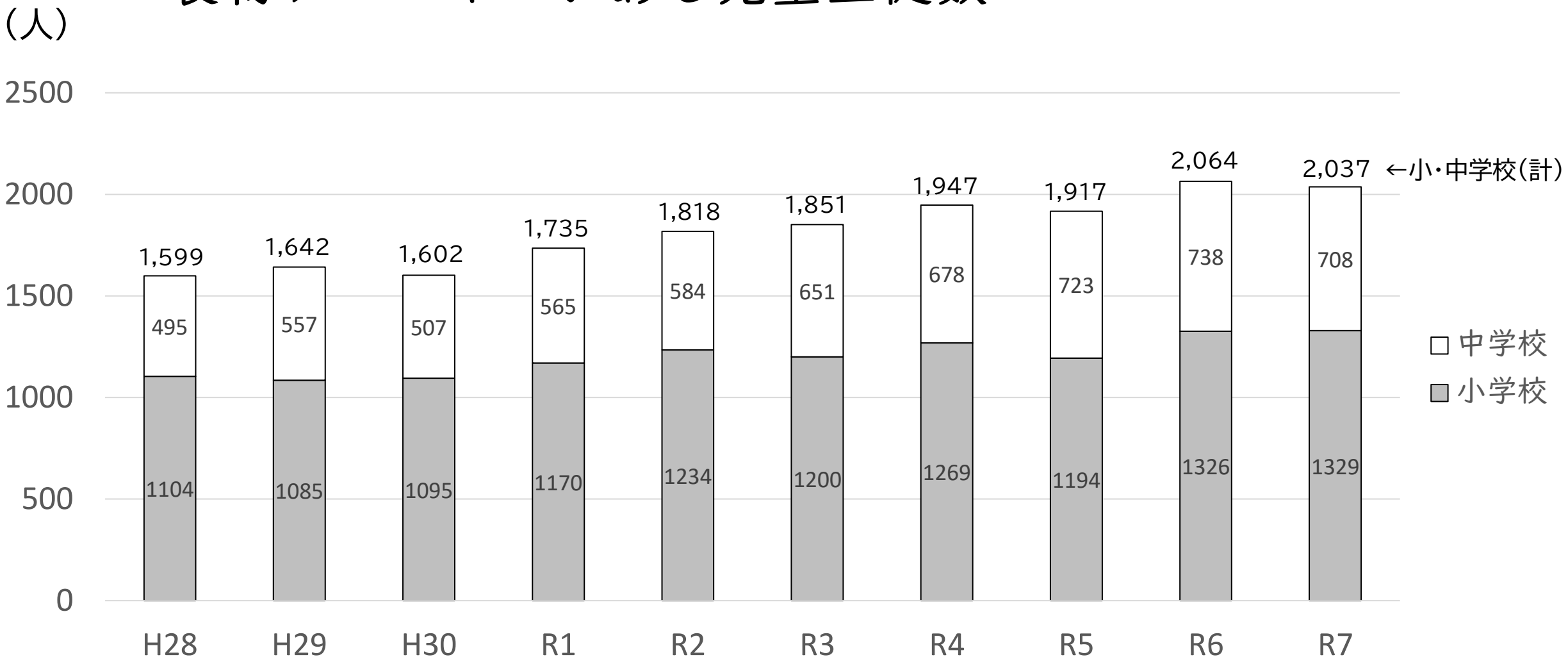
小・中学校
（全69校:31,034人）



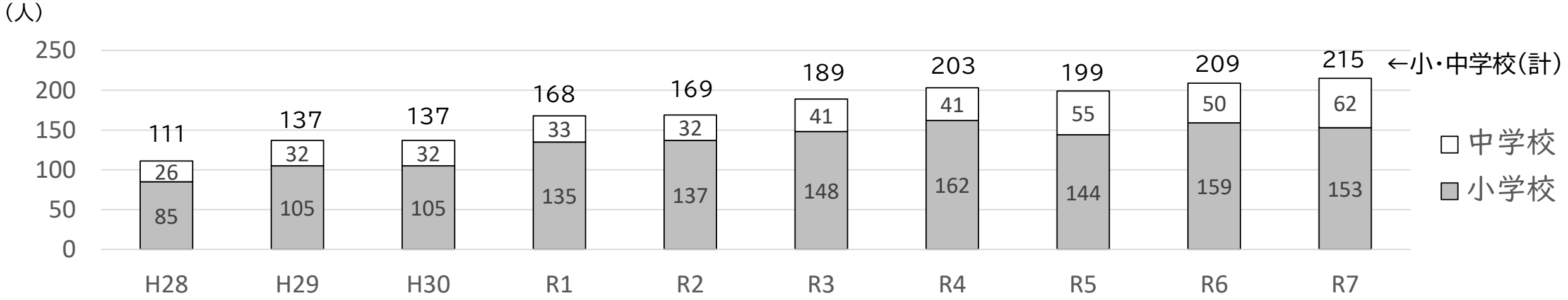
小・中学校在籍者のうち、食物アレルギーがある児童生徒の割合は、小学校が6.5%、中学校が6.8%であった。

※　H28～R7年度

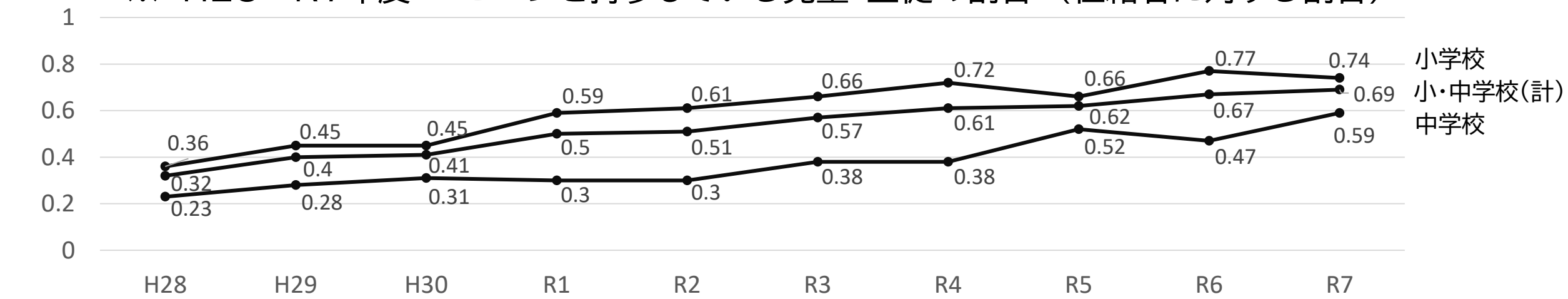
食物アレルギーがある児童生徒数



②　H28～R7年度　学校にエピペンを持参している児童生徒数



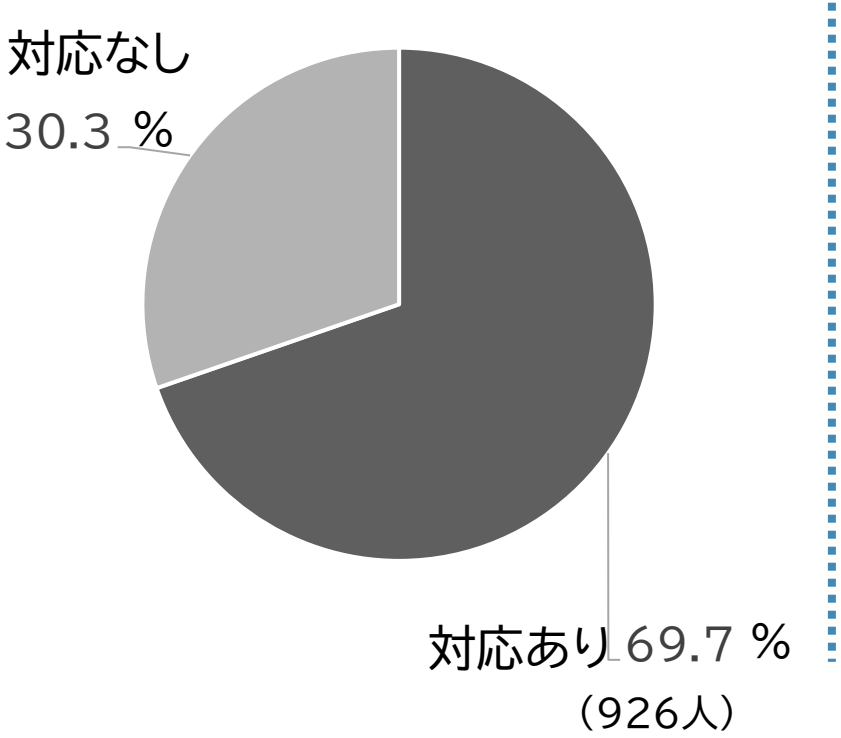
※　H28～R7年度　エピペンを持参している児童・生徒の割合（在籍者に対する割合）



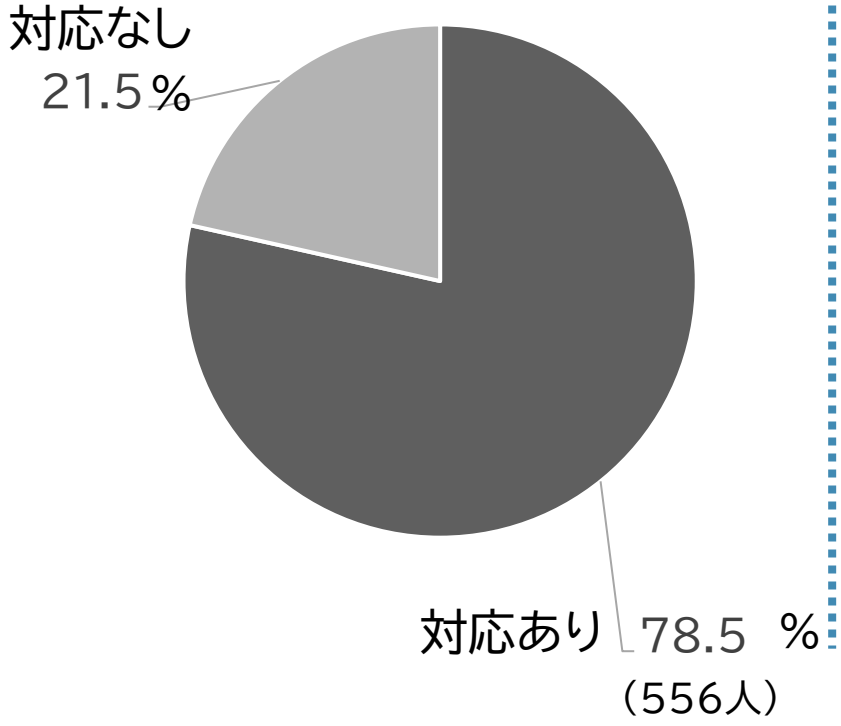
学校にエピペンを持参している児童生徒は、過去１０年間の推移をみると増加傾向にあった。
また、直近（令和７年）では、小学校が１５３人（0.74%）、中学校が６２人（0.59%）でした。

③　学校給食において食物アレルギー対応をしている児童生徒数（食物アレルギーがある児童生徒に対する割合）

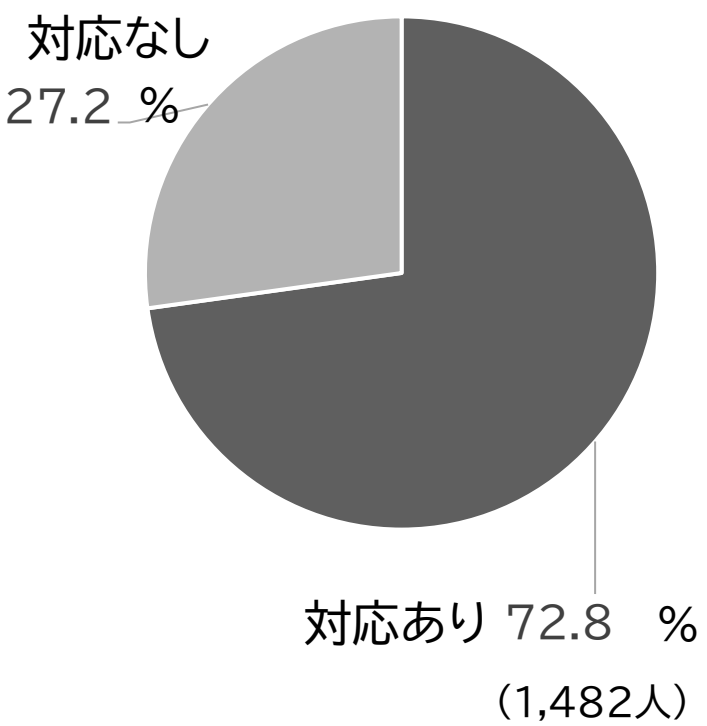
小学校
（アレルギーがある人：1,329人）



中学校
（アレルギーがある人：556人）



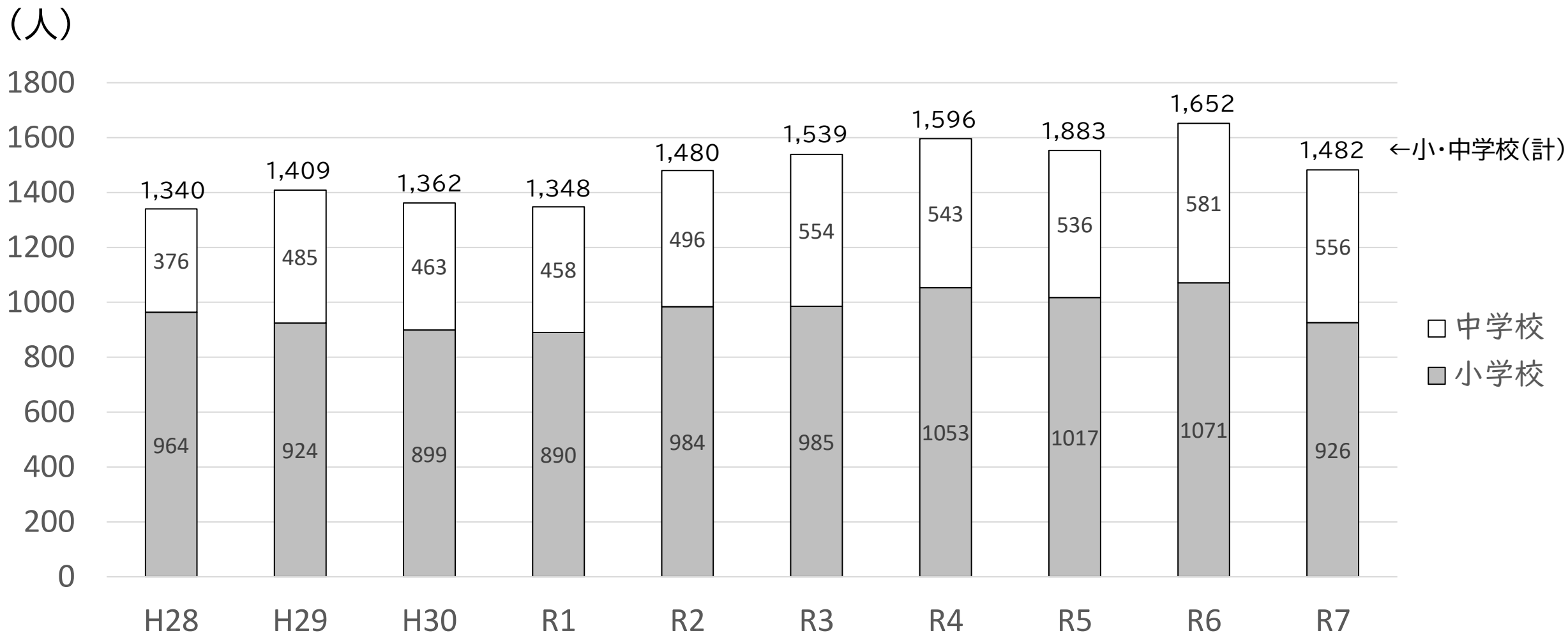
小・中学校
（アレルギーがある人：1,482人）



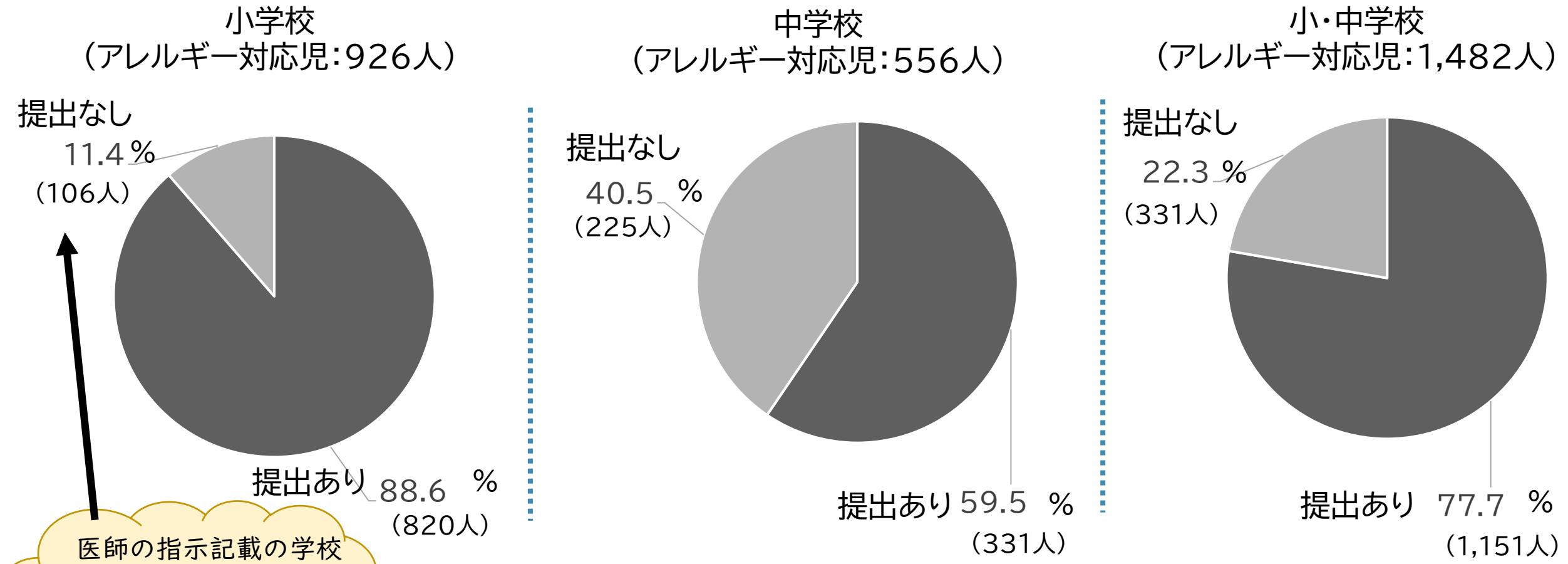
食物アレルギーがある児童生徒のうち、学校給食における食物アレルギー対応をしている児童生徒の割合は、小学校が69.7%、中学校が78.5%であった。

※　H28～R7年度

学校給食において食物アレルギー対応をしている児童生徒数



④　医師の指示記載の学校生活管理指導票提出による学校給食アレルギー対応数（食物アレルギー対応をしている者に対する割合）

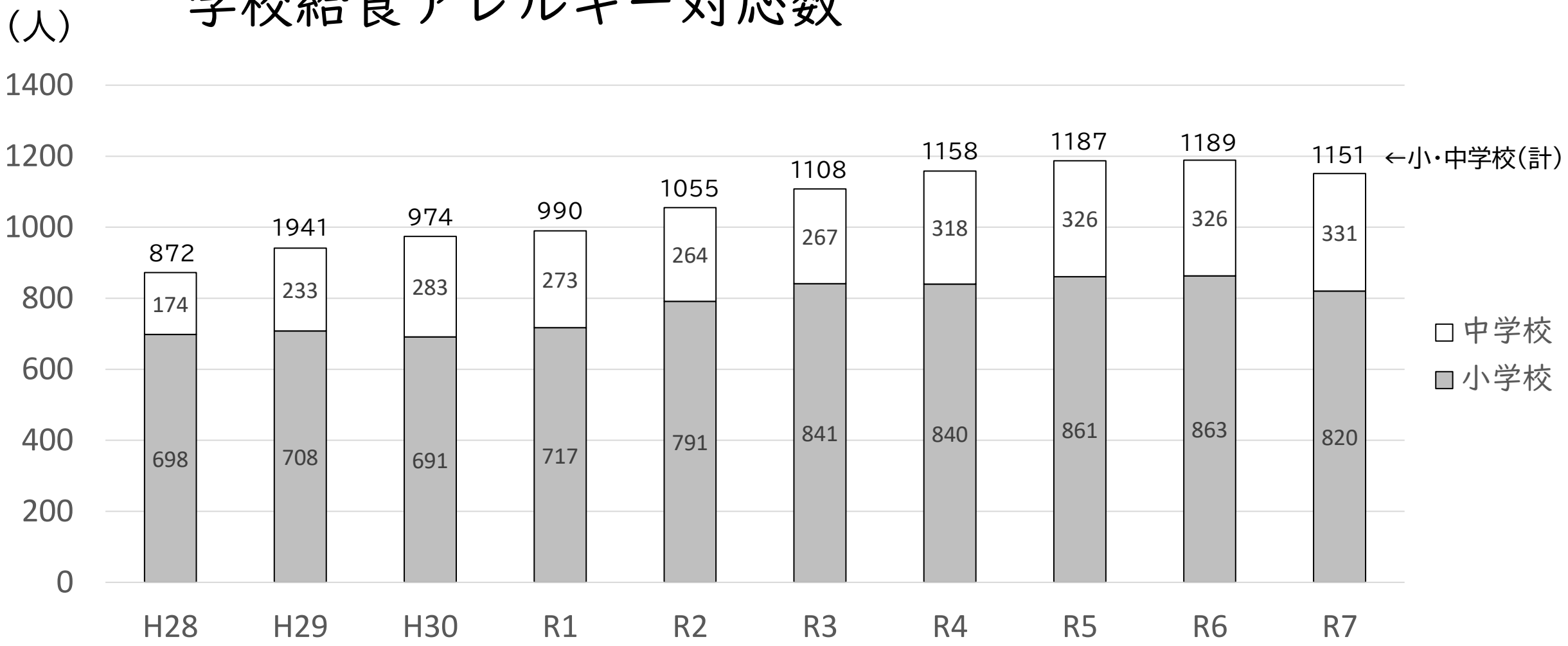


医師の指示記載の学校生活管理指導票の提出がなく、保護者からの申し出によるアレルギー対応

学校給食にて食物アレルギー対応をしている児童生徒のうち、医師の指示記載の学校生活管理指導票を提出している児童生徒の割合は、小学校が88.6%（820人）であったが、中学校は59.5%（331人）で、中学校の方が少なかった。

※　H28～R7年度

医師の指示記載の学校生活管理指導票提出による学校給食アレルギー対応数



⑤　児童生徒のアレルギー原因　食物別内訳

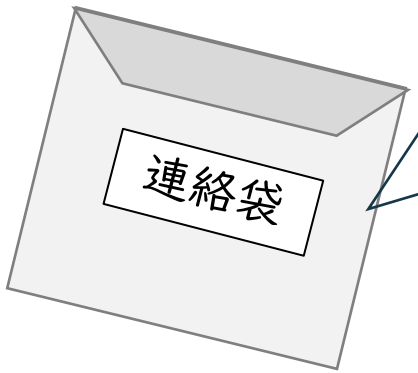
※学校生活管理指導票（医師の指示）の提出あり

順位	小学校	アレルギーを有する児童生徒に対する割合（%）	中学校	アレルギーを有する児童生徒に対する割合（%）
1	卵	21.0	卵	15.8
2	くるみ	12.9	乳	12.3
3	落花生（ピーナッツ）	12.3	りんご	10.5
4	乳	11.7	キウイフルーツ	10.3
5	キウイフルーツ	11.4	えび	9.9
6	カシューナッツ	11.3	もも	8.3
7	アーモンド	8.9	かに	7.8
8	マカダミアナッツ	7.8	落花生（ピーナッツ）	7.1
9	りんご	7.5	くるみ	5.6
10	えび	7.4	カシューナッツ	4.7

⑥　学校給食における食物アレルギーの対応方法

（学校給食で食物アレルギー対応をしている児童・生徒に対する割合）

	小学校（人）	割合（%）	中学校（人）	割合（%）	小・中学校（人）	割合（%）
飲用牛乳中止	202	21.8	125	22.5	327	22.1
アレルギーチェック用資料を保護者へ配布	**626**	**67.6**	**218**	**39.2**	844	57.0
教室で本人または学級担任等が除去	493	53.2	405	72.8	898	60.6
家庭から一部弁当の持参	242	26.1	61	11.0	303	20.4
家庭から完全弁当の持参	**41**	**4.4**	**14**	**2.5**	55	3.7
調理場での除去食対応	183	19.8	79	14.2	262	17.7
学校給食で食物アレルギー対応をしている児童・生徒	926	100	556	100	1482	100



アレルギーチェック用資料
- 加工食品等アレルゲン一覧表
- 詳細献立表
- もりつけ表　　等

学校給食にて食物アレルギー対応をしている児童生徒のうち、アレルギーチェック用資料を保護者へ配布している割合は、小学校は67.6%（626人）、中学校は39.2%（218人）で、中学校の方が少ない。また、家庭から完全弁当の持参をしている児童生徒の割合は、小学校が4.4%（41人）、中学校は2.5%（14人）でした。

⑦　調理場で除去食対応している児童・生徒数

	卵	えび	いか	小麦	大麦
小学校	1位 （145人）	2位 （21人）	3位 （9人）	3位 （9人）	5位 （3人）
中学校	1位 （55人）	2位 （28人）	3位 （9人）	4位 （3人）	5位 （2人）
小・中学校	1位 （200人）	2位 （49人）	3位 （18人）	4位 （12人）	5位 （5人）

※1人で複数アレルゲンがある場合、それぞれの食物でカウント

調理場での除去食対応は、卵が一番多く、次にえび、いかと続いていた。

まとめ

高松市食育実態調査：調査票C（Ｒ７年５月１日現在）

- 小・中学校在籍者のうち、**食物アレルギーがある**児童生徒の割合は、小学校が6.5%、中学校が6.8%であった。

- 食物アレルギーがある児童生徒のうち、**学校給食において食物アレルギー対応**をしている児童生徒の割合は、小学校が69.7%、中学校が78.5%であった。

- 学校給食にて食物アレルギー対応をしている児童生徒のうち、**医師の指示記載の学校生活管理指導表を提出**している児童・生徒の割合は、小学校が88.6%、中学校が59.5%で、中学校の方が少なかった。

- 学校給食にて食物アレルギー対応をしている児童生徒のうち、**アレルギーチェック用資料を保護者へ配布**している割合は、小学校は67.6%（626人）、中学校は39.2%（218人）で中学校の方が少なかった。

食物アレルギー事故・ヒヤリハット事例

報告件数

	R５	R６	R７
誤食事例	５件 ※栄養教諭置籍校４ 給食センター等受配校１	４件 ※栄養教諭置籍校３ 給食センター等受配校１	４件 ※栄養教諭置籍校２ 給食センター等受配校２
新規発症事例	０件	０件	１件 ※給食センター等受配校１
その他	１件（落下物を拾ったことによる） ※栄養教諭置籍校１	０件	３件（部分解除による） ※栄養教諭置籍校２ 給食センター等受配校１
ヒヤリハット事例	０件	４件	６件

再発防止のため…

令和5年度～　フィードバックコメントを入れ各学校へ周知

令和6年度～　ヒヤリハット事例とともに、事故もパソコンで閲覧可能に